

KOBEを愛して46年／月刊 神戸っ子

2007年11月1日発行 第46巻第11号
通巻554号 昭和40年1月20日 第三種郵便物許可

KOBECCO

11 2007
November
vol.554

特集

千年の時をへて 源氏物語にみる

須磨・明石の風景



結婚30周年。

真珠婚。

今、感謝の気持ちが輝いています。

これからも共に

美しいときを。



真珠婚記念ジュエリー“パールジェンヌ” ☎ 0120-111-446 www.tasaki.co.jp

パーティーのご予約承ります

Gourmet Promenade

グルメプロムナード

SINCE 1997 IN KOBE

10F

日本各地から取寄せた旨い物と名酒に出会える
レストラン&BAR

燦
DYNAMIC
KITCHEN & BAR
SUN

■営業時間
ランチ/11:00~15:00
(オーダーストップ14:00)
ディナー/17:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
【土・祝】11:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
TEL.078-331-1233



和空間で関西創作おでんと名古屋コーチンの串焼きを
焼き鳥・おでん

神戸
おでん

■営業時間
ランチ/11:00~15:00
(オーダーストップ14:30)
ディナー/17:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
TEL.078-326-5133



2F

ていねいに抽出したコーヒーが自慢のカフェテラス
喫茶

UCC Café Plaza

■営業時間
8:00~21:00
(オーダーストップ20:30)
【土・祝】9:00~21:00
(オーダーストップ20:30)
TEL.078-391-4057



9F

大正6年創業の名門料亭の味わいを
日本料理

松通家
Matsutomo

■営業時間
ランチ/11:00~15:00
(オーダーストップ14:30)
ディナー/17:00~23:00
(オーダーストップ21:30)
TEL.078-333-0678



神戸の夜景を眺めながら特選黒毛和牛をふんだんに
あぶり工房

あぶり工房
Aburi Kobo

■営業時間
ランチ/11:00~15:00
(オーダーストップ14:45)
ディナー/17:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
【土・祝】11:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
TEL.078-331-2929



本格イタリアンから選べるコースをカジュアルに
イタリア料理

Papa Milano
TRATTORIA

■営業時間
ランチ/11:00~15:00
カフェ/15:00~17:00
ディナー/17:00~23:00
(オーダーストップ22:00)
TEL.078-331-1122



三宮ターミナル 神戸交通センタービル

<http://www.kotsu-center-bldg.com>

Art View

— VOI : 30



秋の陽だまり (2007)

深田 千尋

作家プロフィール



深田 千尋 (ふかだ ちひろ)

滋賀生まれ。幼少のころから花が好きで、短大では園芸を専攻し庭づくりを学ぶ。講習会でフラワーアレンジメントに出会い、手の中で小さな世界をつくる喜びに目覚める。2001年より単身ヨーロッパへ。ロンドンのCapel Manor Collageでアレンジメントの基本を履修後、パリへと移り花屋で働きながら実践を重ねる。その後ドイツのフライブルクで研鑽を積み、2007年に帰国。帰国後は神戸を拠点にフリーのフローリスト「picnique」として活動。神戸在住。

「picnique」
ブログ <http://picnique.exblog.jp/>
メール pivoine.picnique@coast.ocn.ne.jp

お花畑を切り取ってきた。そう見紛うくらいの自然なアレンジメントは、花の持つ質感、色合い、そして息吹を何気なく引き出している。

一粒の種から出てくるようなイメージで絶妙なバランスを描く。淡いピンクの

下紫万紅、やさしく深く



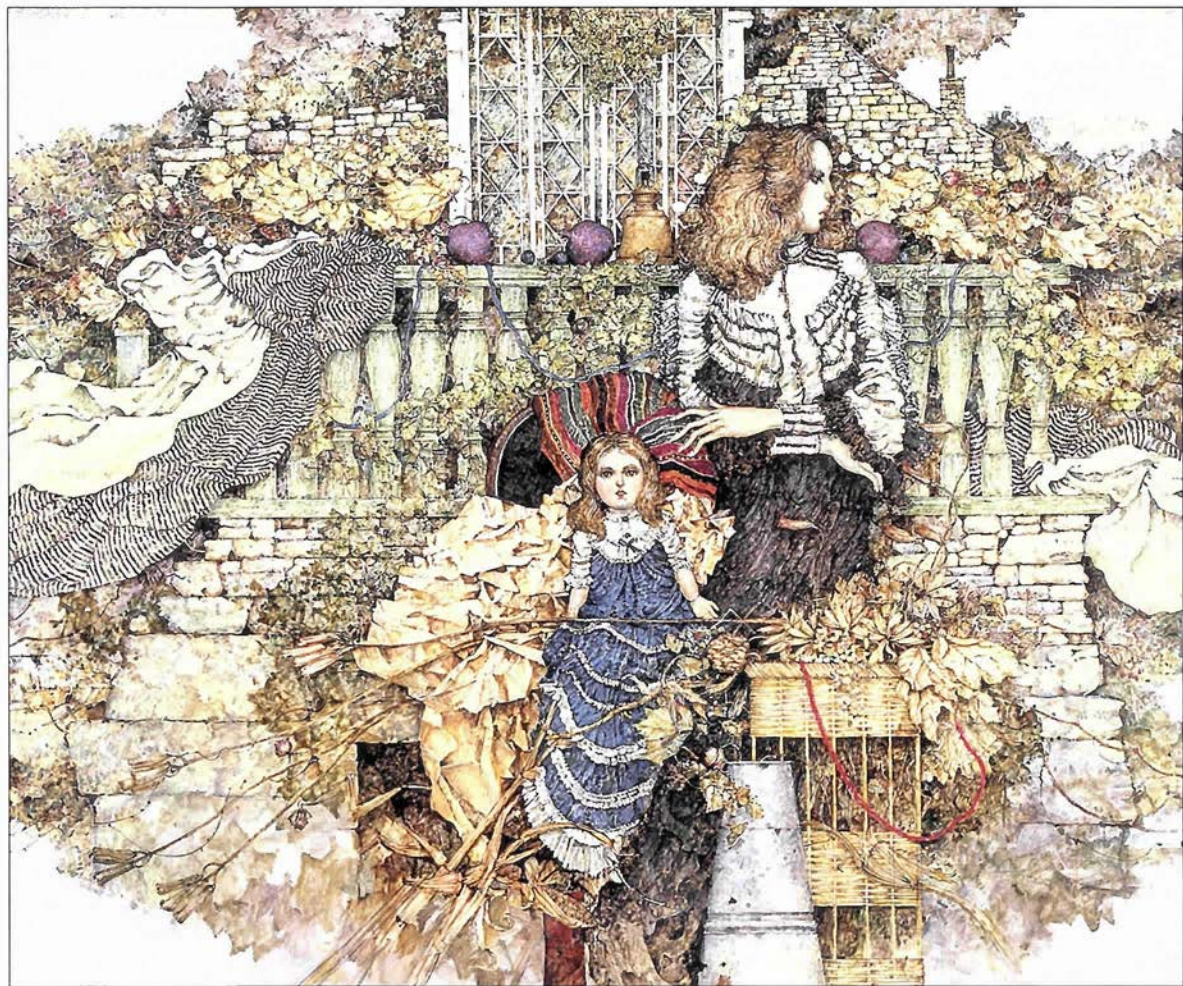
薔薇「ドラフトワン」と、トルコギキョウやオースタムビオレの淡色に、ワックスフラワーのアクセント。薔薇の実と野葡萄が、秋の便りを届けてくれる。葉も実も、自然の中では当たり前なもの。それらをさり気なくあしらひ、花々の個性が引きだせる。この彩やかな調和を醸す感性の鍵は、ヨーロッパで得たものだ。

「花などなくても、生きてはいけます。でも向こうでは、花はいつも生活に寄り添っているのですよ」と深田さん。「庭はリビングの延長」と語る英国のガーデナー。週末に一輪の薔薇を買っていくパリの青年。ヨーロッパでさまざまな人たちと出会い、日常の空気を直に吸い込んだ彼女は、しなやかにそのエッセンスを自分のものとし、花と対話しながら「生命」を「文化」へと昇華させていく。

おだやかな「陽だまり」は、心をそっと温めてくれる。だから、大切な人に贈りたい。散ることのない愛を込めて…。

フロントアート

The front art



石阪春生「白い格子の窓と女のいる風景」2006年

6 特集 千年の時をへて

源氏物語にみる須磨・明石の風景

8 「源氏物語」須磨・明石の巻

12 ようこそ須磨へ

13 月見の宴

14 神戸市立須磨離宮公園

「秋の風情と共に歴史物語を訪ねる」

18 現光寺「光源氏に思いをはせる」

20 大本山 須磨寺「平家の盛衰を今に伝える」

22 須磨琴「行平の想いを琴の音にのせて」

24 ようこそ明石へ

25 明石薪能

26 明石公園「歴史薫る緑の楽園」

32 明石うまいもん紀行

34 美味一徹 明石の名産

36 明石の名店の味

38 須磨の話題&散策MAP

40 明石の話題&散策MAP

42 浮世絵に描かれた須磨・明石の名月



2 ART VIEW®/秋の陽だまり:深田千尋

4 FRONT ART/石阪春生

44 神戸のお嬢さん/エレナ・パノーワさん 鈴木麻衣子さん

46 神戸ことはじめ

48 KOBECCO2007/村上桂太郎さん 藤本芳さん

50 KOBE陶芸展

52 アニー・キャロルの部屋へようこそ

54 ひょうごの文化施設めぐり【兵庫県立考古博物館】

56 特別座談会 ロリン・マゼール氏をお迎えして

60 神戸イベントニュース

64 コウベスナップ

66 追悼・鬼塚喜八郎

68 風さやか特別公演

70 くらしと健康

71 神戸再発見「華僑が信仰する神戸の諏訪神社」

74 でん太の教えてドクター

76 <連載>おもしろ浮世絵講座・江戸の遊び絵

造形のマジック⑩「六花撰戯画」中右瑛

78 <連載>海船港

「くばしふいっくびいなす」で囲碁三昧クルーズ」 上川庄二郎

80 <連載>漫画 日本の真珠王・田崎俊作物語⑩ 佐藤晴美

90 <連載>コーヒークップの耳⑩ 文・出石アカル 絵・菅原洸人 題字・六車明峰

92 <連載>神戸異人館物語 夜明けのハンター⑩ 文・三条杜夫 絵・谷口和市

98 美味より神戸「Liang You」「春善」

100 エレガントナイト

102 KOBECCOグルメ

112 百店会だより

116 法人会員ニュース

134 Kitano Hot News

136 有馬歳時記

142 Present

145 定期購読のご案内

146 編集後記

147 2007年11月の貴方by真希の占い

148 エーデルワイスミュージアム

特集

千年の時をへて源氏物語にみる

須磨・明石の風景



篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻」(部分)

帖

「源氏物語」須磨・明石の巻	8
ようこそ須磨へ	12
月見の宴	13
神戸市立須磨離宮公園	14
現光寺	18
須磨寺	20
須磨琴	22
ようこそ明石へ	24
明石新能	25
明石公園	26
美味・微 明石うまいもん紀行	32
明石の名産	34
明石の名店の味	36
須磨・明石とつておき情報	38
浮世絵に描かれた須磨・明石の名目	42



源氏物語 年紀

紫のゆかり、ふたたび

二〇〇八年、「源氏物語」が千年を迎えます―
源氏物語千年紀事業

『源氏物語』の作者 紫式部による『紫式部日記』の寛弘5年(1008) 11月1日の条に、源氏物語がすでに宮中で読まれていたと考えられる記述があることから、平成20年(2008)を千年の大きな節目である「源氏物語千年紀」とすることが、梅原猛さん、瀬戸内寂聴さん、千玄室さん、ドナルド・キーンさんら有識者の皆さんにより呼びかけられました。これを機会に、世界最古の長編小説であり、日本文化の根幹ともなった『源氏物語』の思想を再評価するため、さまざまな取り組みが行なわれるのが、「源氏物語千年紀事業」です。

『源氏物語』の中で、大きく物語が展開していく舞台のひとつに、須磨・明石があります。光源氏が都を離れて移り住んだ須磨、そしてのちの中宮を産むことになる明石の君と出会った明石。来年の千年紀に先がけて、今月の特集では、「須磨」の巻、「明石」の巻をひもときながら、現在の須磨、明石に歴史絵巻を訪ねる旅にいきます。

■源氏物語千年紀委員会事務局
京都市上京区丸太町通
河原町西入る高島町335
☎075-231-2008
<http://2008genji.jp/>

シンボルマーク等使用承認番号19源L174号

須磨に退去し、明石で新しい恋に出会う
光源氏 二十六歳春から二十八歳秋までの物語

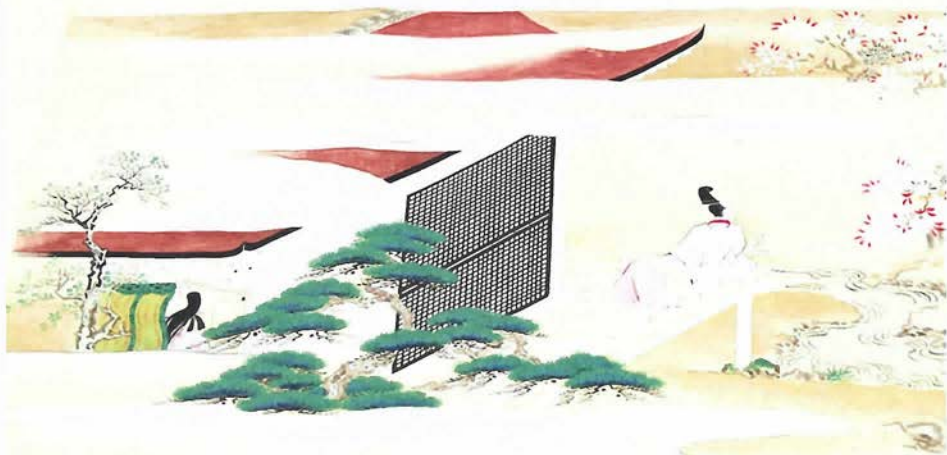
『源氏物語』須磨・明石の巻

「須磨」の巻 あらすじ

帝の第二皇子として生まれ、数々の女性たちと浮名を流してきた光源氏。しかし異母兄である朱雀帝のもとに入内する身である臘月夜の君との逢瀬が見つかり、右大臣家との政争に巻き込まれた源氏は、地位を捨てて、須磨の地に退くことを決意する。

須磨の地で、源氏が住まう場所は、行平の中納言が「わくらばに問ふひとあらば須磨の浦に藻塩たれつつ侘ぶとこたへよ」と詠んだ住まいの近くにあった。海岸からは少し入り、身にしてみるばかりの寂しい山の中だった。茅葺きの建物など、風情のある佇まいに、このような境遇でなければ、興趣深く見ただろうと源氏は思われた。

梅雨、夏が過ぎ、秋がきて、夜は波音がまるでここまで打ち寄せるように聞こえ、寂しさを募らせる源氏。十五夜の日には、月を見ながら、京の恋しい人を思い出した。





一方、明石の浦に住む、明石の入道は、光源氏が須磨に退去しているという話をきき、ぜひ自分の娘を差し上げようと思っていた。一風変わった人物であつた明石の入道に育てられた明石の君は、すぐれた器量ではないが、やさしく上品で、教養があり賢く、京の高貴な女性にも負けないほどだった。

須磨では年も改まり、源氏が植えた若木の桜が咲き出して、京の南殿の桜を思い出す源氏。3月、巳の日の禊ぎに出かけた源氏だったが、お祓いが済まないうちに、急に風が吹き、雨が降り出した。嵐になり海は荒れ、源氏は家にこもった。



須磨離宮公園の月見台



関守稲荷神社



須磨寺



現光寺

物語のふるさとを訪ねる

須磨編

■現光寺

光源氏の住居跡と伝えられ、昔は「源氏寺」と呼ばれていた。(18ページで詳しく紹介)

■須磨寺

光源氏が「若木の桜」を植えたとされる地。今は桜の碑が残る。(20ページで詳しく紹介)

■関守稲荷神社

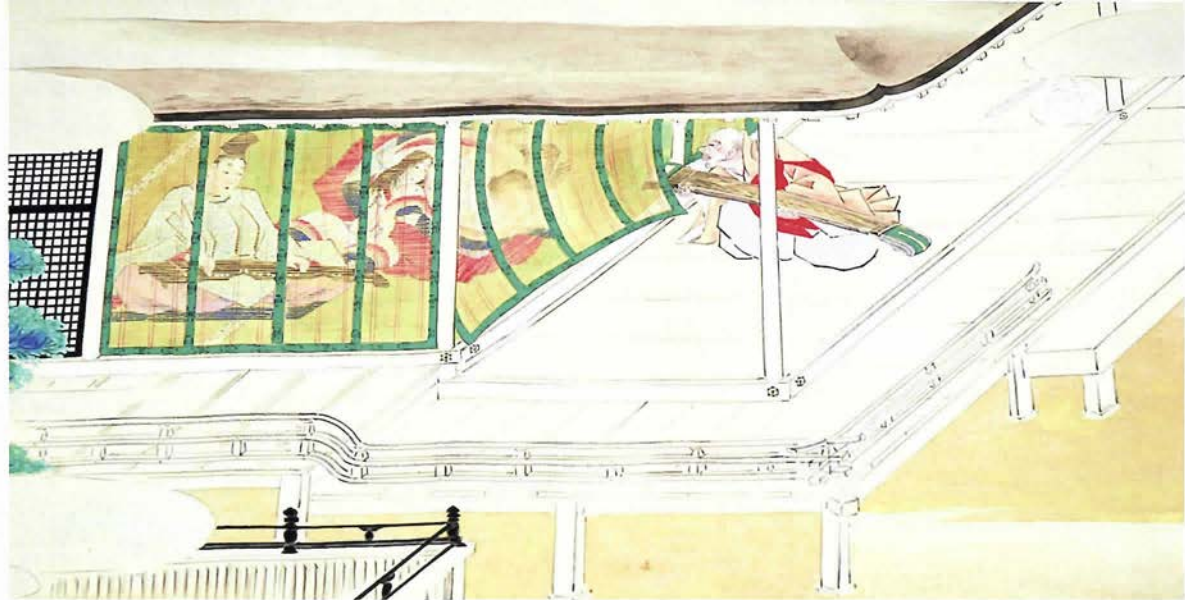
須磨の関・摂津の関の守護神として祀られた。光源氏が、巳の日祓をしたところになぞらえ「巳の日稲荷」ともいう。

■桜木町・若木町

須磨区の地名。源氏が植えた「若木の桜」にちなんでつけられたとされる。

■須磨離宮公園の月見台

須磨にわび住まいをし、物語にもそこで詠んだ歌が登場する実在の歌人・在原行平が、秋の夜に月見に訪れたとされる裏山が、のちに月見山と名付けられた。須磨離宮公園の月見台は、空の月、海面に映る月が楽しめる絶好の月見の場所とされ、かつては月見の東屋があつた。現在、その東屋復元の運動がすすめられている。



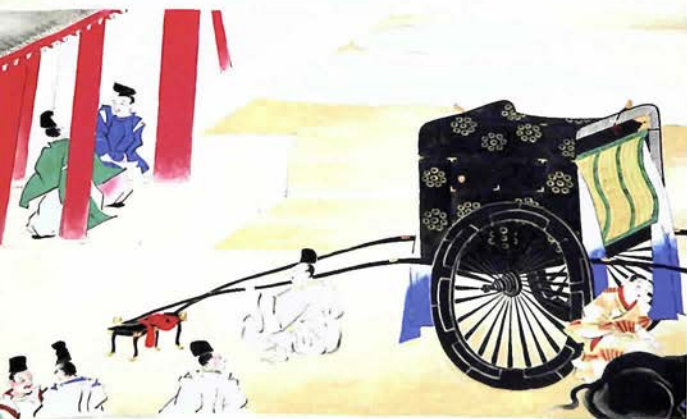
「明石」の巻 あらすじ

須磨の雨風はおさまらず、数日たった。

明石の入道は船に乗り、源氏を迎えに来る。源氏は明石の入道の浜の館に迎えられることとなった。入道の領地は、海辺にも山の手にもあり、天然の景勝はいうまでもなく、庭のしつらえも良く、優美で都の高貴な人々の住居と変わらないようだった。

明石の君は、高貴な源氏との恋にとまどう。入道は、源氏の弾く琴の音に感動し、それとなく自分の娘の話をするが、源氏は京の恋しい姫君のことを思っていた。





明石の君の住む家は、木が深く繁って、海辺の家とはちがいひっそりした佇まい。源氏が訪ねるも、明石の君はなかなか気を許さない。しかしいつしか明石の君は心を許し、源氏は君のもとに通うようになる。そして、明石の君は懐妊。しかし、そのころ、帝がご病気のため、源氏に京に戻れという宣旨が届く。源氏は、明石の君と、生まれてくる子に心を残しながら、明石を去る。

愛しい人との別れに苦悩するも、子を産んだ明石の君。その女の子は、のちの明石の中宮。明石の中宮は源氏と紫の上に育てられ、東宮妃として入内する。東宮はのちに帝となり、明石の中宮は東宮帝との間に男皇子をもうける。

物語のふるさとを訪ねる

明石編



無量光寺

■無量光寺
光源氏が月見をしたといわれる場所。



菖の細道

■菖の細道
無量光寺のすぐ横にある小道で、源氏が、明石の君の住む館に通った道とされる。恋の細道に思いをはせてみては。



善楽寺とゆかりの松



善楽寺境内の碑

■善楽寺
明石の入道の住まいであったとされるお寺。「源氏物語」を愛した、第五代明石藩主・松平忠国が作った、明石入道の碑や、ゆかりの松がある。明石でもっとも古いお寺。

絵巻・篠山市立歴史美術館蔵「源氏物語絵巻（須磨・明石巻 全6巻）」より
狩野派の絵師・狩野栄川（典信法印）が素図を描き、能書家が詞書を加えた「須磨・明石巻」を十一代篠山藩主・青山忠裕が借り受け、抱えの絵師で、狩野栄川の門人・宋保猪原興繁らに写させたもの。



今年開園50周年を迎えた神戸市立須磨離宮公園



松のある美しい風景が多い須磨（写真は須磨海岸）



紅葉を愛でる散歩へ



秋の須磨で歴史散策を

須磨へ ようこそ

須磨区長
南 一郎

須磨は、奈良、平安の昔から、海と山々の自然環境に恵まれた風光明媚な土地柄として広く知られ、源氏物語等の文学作品にも取り上げられています。また、須磨に憧れを抱いた多くの文人墨客が須磨を訪れ、多くの和歌や俳句を残すなど文学・歴史等の魅力資源があふれるまちです。

このような須磨の文学・歴史的資源を区民、事業者、行政が一体となって育み、伝えていくことが、来訪者への“おもてなし”であると考えています。現在、須磨離宮公園、須磨寺をはじめとする区内の観光施設、商店街、寺社が連携し「須磨歴史紀行スタンプラリー」を開催（～11月25日）しています。是非、この機会に須磨にお越しいただき、まち歩きを楽しみながら“須磨の秋”を感じていただければと思います。

海に浮かぶ月にたとえたと云われている。

風景 須磨・明石の



京都から届いた紫式部の手紙が読まれると夜空には月が



松風・村雨と、明石から十二単の「明石の君」が訪れた

「今宵は十五夜なりけり…」
紫式部は全 54 巻から成る「源氏物語」の内、この「須磨の巻」の月見の情景から書き始めた。石山寺で琵琶湖の湖面にゆれる名月を眺め、その様子を須磨の



演目「葵の上」を演じる大和松時さん



神戸女子大の学生による着物ショー



西海淳二さん(NPO法人須磨歴史倶楽部理事長)が案内役に



須磨離宮公園は、月の名勝として知られている。毎秋、観月を楽しむ「月見の宴」を開催。今年も9月23・24日に、源氏物語千年紀イベントの一環として盛大に開催され、多くの観客が見守った。光源氏のモデルといわれる在原行平ゆかりの琴で、兵庫県が無形文化財である一絃「須磨琴」の演奏は、朧月夜の下、静寂な雰囲気の中にこだました。文化庁芸術祭優秀賞を受賞した大和松時さんは、演目「葵の上」を演じた。24日には、和太鼓の松村組が登場し、魂のこもった演奏で観衆を魅了した。

神戸女子大学の学生たちが、在原行平と須磨で月見をしたという女性・村雨、松風の衣装を創作。学生たちがモデルに扮して、ステージで披露され、絵巻から抜け出てきたような雅な装束に観客も息をのむほどであった。

来年の千年紀記念イベントでは、光源氏の衣装を作製し披露されるとか。観衆も期待をふくらませた。